Hospital & Clinic

手稲渓仁会

事務作業にRPAを導入

年間6000時間以上の業務削減

手稲区の手稲渓仁会病院（田中繁道理事長、古田康院長・670床）は、事務業務、医事業務のチェック作業などに独自のRobotic Process Automation（RPA）を導入。作業の効率化で業務量の削減できたほか、導入の過程で業務の見直しにつながっている。

同病院を運営する渓仁会では、情報システム部を設置し、現在は、同病院10人のほか、同じグループの札幌西円山病院が3人、定山渓病院、札幌渓仁会リハビリテーション病院、渓仁会円山クリニックにそれぞれ2人、システムエンジニアを配置している。

普段は、法人本部、各施設のさまざまな部署において、電子カルテだけでなくパソコンと各種機器やネットワークの接続など、さまざまな不具合や相談に対応し、業務の円滑化に貢献している。

医療現場での働き方改革が課題となる中、事務部門などのルーティン業務に多くの時間を費やしている点に着目。専門性を生かしてRPA化を進めている。

RPAとは、ソフトウエアロボットによる業務自動化をいい、あらかじめ手順が決まっているマウスやキーボードを使った定型作業を、何度でも、高速にミスなく自動で処理できる技術。

各部署・現場を対象にヒアリングを行うと同時に、業務を可視化してもらい、RPA導入できるのか、導入後どれほど業務が改善できるのか等について時間をかけて話し合い、シナリオカードを作成して定型業務を作り出し、RPA化に向け、独自のシステムを開発している。

これまでに22件の業務をRPA化。例えば外科NCDデータ入力作業では、電子カルテから対象医師、患者データを抽出し、表計算アプリケーション台帳に出力。順次、入力台帳データからNCDの患者情報、入院日、手術日等の基本情報を入力するという作業を自動化した。

持参薬入力では、退院患者ごとにオーダリングシステムから持参薬情報を医事会計システムへ入力。閲覧機能へ担当者情報を日々一覧入力する作業にRPAを導入できた。

各種業務のRPA化によって、年間合計6200時間近くの業務時間が削減できた。さらに、導入に向けた業務の可視化によって、年間合計200時間以上の不必要な作業を減らした。

一方、RPA導入に向けた業務の可視化は、現場スタッフの大きな負担になることも。RPAのシステムづくりを一人で担当する同部の宮永滉弥氏は、「業務に関連するさまざまなことを理解する必要もあるため、現場スタッフとは何度も話し合う。完成までに1カ月以上はかかる」と説明する。

同部の立川圭太主任代理は「RPA化は業務の削減ではなく、あくまでも改善が主目的。そのためにも、業務の可視化は必須だが、その作業は簡単ではない。しっかりと、目的を理解してもらうことが重要」という。

RPA化に向けたシナリオカード

シナリオカード2

定型業務	外科NCDデータ入力
カテゴリ	院外システム接続
IN	電子カルテデータ（DWH）
OUT	外科NCD登録（患者情報）
トリガ	1回／月
推奨工数	9時間
シナリオ	電子カルテDWHより対象医師・患者データを抽出しEXCEL台帳に出力。順次入力台帳データよりNCDの患者情報、入院日、手術日等の基本情報を入力。 ※電子カルテ＆インターネット共存環境
導入効果	①転記内容の正確性向上 ②業務時間削減 11時間／月（年間132時間） ③煩雑業務ストレスからの解放